

学校法人志學館学園  
鹿児島女子短期大学  
機関別評価結果

平成 27 年 3 月 12 日  
一般財団法人短期大学基準協会

## 鹿児島女子短期大学の概要

設置者	学校法人 志學館学園
理事長	志賀 啓一
学 長	幾留 秀一
A L O	村若 修
開設年月日	昭和 40 年 4 月 1 日
所在地	鹿児島県鹿児島市高麗町 6 番 9 号

### 設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
児童教育学科		240
生活科学科	生活科学専攻	30
生活科学科	生活福祉専攻	30
生活科学科	食物栄養学専攻	100
教養学科		100
	合計	500

### 専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	児童教育専攻	30
専攻科	生活科学専攻	10
専攻科	食物栄養専攻	10
	合計	50

### 通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

## 機関別評価結果

鹿児島女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 27 年 3 月 12 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 25 年 7 月 16 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

志學館学園の建学の精神である「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」及び創設者の「みおしえ」を継承し、その精神を具現化して、一人一人の学生をみつめ、単に専門の領域での知識や技術修得だけでなく、人（女性）としての豊かさを大切にした教育を推進している。

学習成果については、「学位授与の方針に示された諸能力」として規定し、全学の教育課程をとおしてこれらの能力を獲得することを学習上の目標としている。

教育の質向上・充実のため、PDCA サイクルを機能させる組織的 FD 活動に取り組み、その成果としてシラバスを含めた履修要項が改善された。自己点検・評価活動についても、点検・評価委員会が主体となり、全教職員が関与する仕組みを組織化している。

教育課程については、学科・専攻課程の学位授与の方針に対応して、卒業資格、免許・資格取得のための単位が明確に定められており、成績評価の方法は履修要項にそれぞれ明示されている。各学科・専攻課程の入学者受け入れの方針についても、大学案内・ウェブサイト・学生募集要項等に明記し、受験生など外部からの問い合わせにも適切に対応している。

学習成果については、全学的には科目別の評価と各学期の平均点により査定しているが、平成 26 年度より GPA と偏差値が導入された。一部の学科・専攻課程においては、外部の資格認定試験等の受験結果を学習成果測定の指標としており、卒業生の免許・資格取得率は、免許・資格によって異なるが、おおむね高い数値である。卒業後評価についても、学生の就職先から、綿密な聞き取りを行っている。

学習・生活支援については、学期途中に「授業に関する中間アンケート」を実施するなど、速やかな授業改善に努めるとともに、学級指導教員制による個別指導など、様々な支援体制を整えている。教職員は、法人の奨励する「自己啓発研修制度」などを活用して、積極的な自己啓発に努めている。また、平成 24 年に「学生支援センター」を設置し、教育相談、キャリア相談や各種採用試験対策講座、進路支援などに組

織的に取り組んでいる。

教育資源については、短期大学設置基準を充足した専任教員が配置されている。教育活動に関する規程は整備され、外部資金獲得のための対策委員会の設置や国内外の留学規程も整備されている。人事管理面では、就業規則、服務規程、コンプライアンス規程などが整っている。

校地、校舎の面積等は短期大学設置基準を充足しており、障がい者に対する配慮もされている。図書館や体育館の充実した施設や附属博物館展示室を有している。施設・設備は、耐震対策など適切に維持・管理及び点検がされている。

学園全体の組織として「情報ネットワーク統括室」が設けられており、図書館・事務局と連携して、技術サービス、施設等の維持向上を図っている。学内 LAN も整備されており、学内には 2 か所のコンピュータ室、マルチメディア教室も整備されている。

財的資源に関しては、資金収支・消費収支は過去 3 か年にわたり均衡している。短期大学の財政と学校法人全体の財政の関係が把握されており、定員充足率についても、妥当な水準にある。

理事長は諮問機関としての「理事長懇談会」の定例化など、経営上の意思疎通を図ることに努め、理事会運営についても、第三者評価に対する役割を念頭にした学園内外の人材配置に努めるなど、学校法人の運営全般についてリーダーシップを発揮している。学長は、3 人の学長補佐を補佐役とする教職協働の教学運営体制を組織し、教育の質保証に向けて教学全般に適切にリーダーシップを発揮している。教授会は、教育研究上の審議機関として適切に運営されており、学長の選任についても適切である。

監事の業務の遂行、評議員会の運営は適切であり、事業運営は、「長期経営計画」に基づいた「中期事業計画」に従い、適正かつ計画的に行われ、予算執行状況、計算書類、財産目録等の表示、資産運用、寄付金募集についても、ガバナンスが適切に機能している。教育情報や学校基本情報については、短期大学ウェブサイト上で、財務情報は志學館学園ウェブサイト上で公表・公開されている。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 平成 25 年度に IR 委員会を設置し、学修時間・教育の成果等に関する情報の収集・分析、教育情報の公表に関することなどを任務として活動している。また、成績評価方法の工夫改善など教育の成果に関する喫緊の課題に取り組み、教育改革を推進させている。

[テーマ B 学生支援]

- 学園独自の奨学金制度・減免処置として、志學館学園特待生、志學館学園奨学金、介護福祉士養成奨励金、長子等減免制度、社会人奨学金制度、金融機関提携学費ローン制度などを多種類用意し、学生への経済的支援制度を充実させている。
- 学科・専攻課程ごとに卒業生就職先への聞き取り調査を実施し、卒業生に関する情報を丁寧に集めて電子ファイル化している。また、その情報を学科会議、就職・進路指導部会等で共有し、学生指導や授業・教育課程等の改善資料にするなど卒業後評価への積極的な取り組みを行っている。
- 地域貢献として多くの取り組みを行っている。特に、鹿児島市最大の市民の祭りである「おはら祭」にヤング踊り連 Team 鹿女短として中核を担っている。この活動は、県外・国外にわたっている。

**基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス**

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 学長のリーダーシップの下、教育課程の体系化等の教務改革、地域コミュニティの拠点活動、国際交流事業等に先導的かつ積極的に取り組んでいる。

**(2) 向上・充実のための課題**

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

なし

**(3) 早急に改善を要すると判断される事項**

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	基準	評価結果
基準Ⅰ	建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ	教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ	教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ	リーダーシップとガバナンス	合

#### 各基準の評価

##### 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

学園の建学の精神である「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」は創設者の建学の精神を継承発展させたものであり、その精神を学則に規定された教育目的、教育目標、さらには教育目標を標語化したモットーにも反映させている。また、創設者が示した建学の精神を実践する際の心構えとしての「みおしえ」を周知、共有するための取り組みも行っている。

平成 25 年度には建学の精神、教育理念、教育目標、三つの方針について全学的な確認・点検の中で見直しを行い、教育目的や教育目標を体系的、具体的に示す努力を行い、学生が修得すべき学習成果を明確にしている。

学習成果については、「学位授与の方針に示された諸能力」として規定し、各学科・専攻課程の教育課程をとおしてこれらの能力を獲得することを学習上の目標としている。また、全学共通の部分については「一般教養のディプロマ・ポリシー」を設定し、全学共通の学習成果を示している。

学習成果の査定は、これまでは卒業判定と各科目の成績評価、単位認定により行われていたが、平成 26 年度から客観的な成績評価を行うために GPA と偏差値を導入している。また、学習成果の可視化を目的にカリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを導入し、学習成果の測定の改善に向けた取り組みを行っている。さらに、学習成果の測定を補うために、学外実習の参加資格の審査や履修カルテを活用している。

教育の質向上・充実のため、PDCA サイクルを機能させる組織的 FD 活動に取り組み、その成果としてシラバスを含めた履修要項が改善されている。

自己点検・評価は、直接的には点検・評価委員会が取り組み、学科や委員会を通じて教職員が関与する仕組みを作っている。外部評価としての認証評価だけではなく、相互評価にも取り組み、そこで指摘された課題については改善に向けて具体的な対策を講ずるなど、成果をあげている。そして、自己点検・評価報告書をウェブサイト上に公開するなど自己点検・評価に積極的に取り組んでいる。

##### 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学科・専攻課程の学位授与の方針は、学則に明確に規定されており、各学科・専攻課程ごとに明確に示されるとともに、学生便覧・短期大学ウェブサイト・大学案内等に掲載することで広く学内外に示されている。

学位授与の方針に対応した教育課程は、卒業資格、免許・資格取得のための単位が明確に定められており、学生はそれらの取得を目指すことで学習成果と対応している。成績評価は履修規定に、各科目の成績評価の方法は履修要項にそれぞれ明示され、厳格に適用されている。

各学科・専攻課程の入学者受け入れの方針は、大学案内・ウェブサイト・学生募集要項等に明記し、広く内外に示している。

学習成果は、全学的には科目別の評価と各学期の平均点により測定している。一部の学科・専攻課程においては、全学共通の測定方法に加え、外部の資格認定試験等の受験結果を学習成果とするなど、学習成果の査定を明確にする工夫がみられる。

卒業後評価については、学生の就職先と実習訪問や事業所訪問等の機会を利用して、綿密に評価の聞き取りをしている。聴取した結果は、学科会議や就職・進路指導部会で報告され、教職員で共有している。

学習支援に関して、教員は、学期途中の早期に「授業に関する中間アンケート」を定期的実施し授業に役立てるなど、授業改善に努めている。また、学級指導教員制による個別指導や図書館における専門事務職員や教員による学生の学習向上のための体制など、様々な学生支援体制が整えられている。教職員は、FD、SD活動や費用の半額を法人が負担する「自己啓発研修制度」などを活用して、自己啓発に努めるなど、教育課程及び学生支援の充実に努めている。

生活支援については、平成 24 年に「学生支援センター」を設置し組織的な支援体制が整えられている。また、毎週 90 分間のクラス・ホームの時間を設けて充実した学生生活を送れるように支援している。

学生支援課は、キャリア相談や就職ガイダンス、資格取得や各種採用試験対策講座などを実施し、学生への就職支援対策を行っている。また進学希望者に対しても、就職・進路指導部会が進学体験発表会を実施など積極的に支援している。平成 26 年度より台湾の樹人医護管理専科学校との交流協定を締結し、留学支援にも積極的である。

入学者受け入れの方針は大学案内及び学生募集要項で明示されており、受験生からの問い合わせにも適切に対応している。

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員数については、短期大学設置基準を充足した専任教員を配置し、充実した教育課程の編成・実施に結びついている。教育活動についての規程は整備され、外部資金を積極的に獲得するための対策委員会の設置や国内外の留学規程も整備されている。FD活動は点検・評価委員会の任務として取り組まれている。事務組織については管理・運営に関する規則に基づき整備され、効率的に事務処理が行われている。SD活動については、SD委員会規則を定め、定期的な会議開催、学外研修の報告会などにより、業務改善に取り組んでいる。人事管理面では、就業規則、服務規程、コンプラ

イアンス規程などが整備されており、適切に行われている。

校地、校舎の面積等は短期大学設置基準を充足しており、授業を行う講義室、演習室、実験・実習室も整備されている。障がい者に対しては、スロープ・点字ブロック、障がい者用トイレを設置するなどの配慮がされているが、さらに中期計画において段差の解消、新たなスロープなどが計画されている。十分な規模・設備を備えた図書館が整備されており、体育館についても適切な面積を有している。また、附属博物館展示室を整備し、建学の精神の継承や短期大学教員などの業績や研究成果の特別展示の場としている。

施設・設備の維持・管理のための規程として「経理規則」、「固定資産及び物品管理規程」等を整備しており、適切に維持・管理されている。また、施設・設備管理委員会が置かれており、施設・設備機器の点検、評価が定期的になされている。

学園全体の組織として「情報ネットワーク統括室」が設けられており、図書館・事務局と連携して、技術サービス、施設等の維持向上を図っている。学内 LAN も整備されており、学内には 2 か所のコンピュータ室、マルチメディア教室も整備されている。

財的資源に関しては、資金収支・消費収支は過去 3 か年にわたり均衡している。帰属収支、教育研究活動のキャッシュフローは何れも良好な水準である。短期大学の財政と学校法人全体の財政の関係が把握されている。その施設設備及び学習資源についての資金配分は適切であり、定員充足率についても、妥当な水準にある。

平成 21 年度に「長期経営計画（2010 - 2015）」を策定し、その中で短期大学の将来像を掲げている。長期経営計画に基づいた「中期事業計画（2013 - 2015）」を策定し外部環境（18 才人口等）、内部環境（学生数、財務推移等）を分析し、経営に生かしている。

#### 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、これまでに学校法人志學館学園の要職を歴任し、平成 26 年 4 月の就任早々から理事長の諮問機関としての「理事長懇談会」を毎月定期的を開催するなど、経営上の意思疎通を図ることに努めるとともに、その業務を総理し、運営全般についてリーダーシップを適切に発揮している。理事会運営についても、第三者評価に対する役割を念頭にした学園内外の人材配置に努めている。

学長は、3 人の学長補佐（学生担当・教務担当・地域連携担当）を補佐役として、教学運営体制を組織し、教育の質保証に向けて教学全般にリーダーシップを発揮、的確に掌理している。

教授会は、教育研究上の審議機関として適切に運営されており、学習成果及び入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、学位授与の方針について共通認識をもって運営されている。学長の選任についても、学園の規程に基づき適切である。

監事は、毎月行われる常務会等にも出席し、業務内容を聴取するなど、日常的かつ稠密な監査に努めている。理事会及び評議員会には毎回出席し、学校法人の業務または財務状況について意見を述べている。また、毎会計年度に監査報告書を作成し、当

該年度終了後 2 か月以内に理事会及び評議員会に適切に提出している。

評議員会は、私立学校法及び寄附行為に基づき構成され、理事長の諮問機関として適切に運営されている。

事業運営については、「長期経営計画」に基づいた「中期事業計画」に従い、適正かつ計画的に行われており、予算執行状況については、学園の経理規則にのっとり、統括者である理事長に毎月報告がされている。計算書類、財産目録等については、各学園規程に基づき適正に表示されている。資産運用についても、前年度末までに運用方針を決定し、毎月の運用状況を統括者（理事長）に報告している。寄付金についても必ず入学後に募集が行われるなど適正である。

教育情報や学校基本情報は短期大学ウェブサイト上で、財務情報は志學館学園ウェブサイト上で公表・公開されている。

## 選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

## 教養教育の取り組みについて

### 総評

教養教育として、全学ほぼ共通の「一般教養科目」の枠組みを設定している。それらの科目は、現代社会における「生きる力」を育成することを目指すものであり、目的・目標は学則等に明記され、建学の精神を反映したものとなっている。

一般教養科目は広い範囲を対象とするもので、科目領域に応じて科目群を設定するとともに、各科目群をテーマに沿って二つに区分している。また、児童教育学科と生活科学科の「WE LOVE 鹿児島!」では、学生が鹿児島の幅広い魅力や問題点について学び、「地域活性化の担い手」として成長することと「ローカル・アイデンティティ」を自覚することで「生きる力」を修得することを目指している。一方「キャリアガイダンス」は各学科・専攻課程の性格に合わせた内容が検討され、地域コミュニティの拠点活動とも関連させながら内容の検討が進められている。

各科目は、科目担当教員が単独で講義する全学横断的科目と、学科・専攻課程の実情に応じて複数の担当者で担当する科目がある。

一般教養科目は、1年次開講が基本となっており、専門領域以外の領域への視野を広げるとともに現代社会への深い洞察力を育成することを目指すもので、学生の興味・関心に合わせて自由に選択できるよう配慮されている。

教養教育の効果については、現在は各科目担当者の評価に任されているが、測定方法や評価については、履修要項の改訂やカリキュラム・マップの導入を予定しており、学習成果と各科目の到達目標の関連等を明確にしていくことを予定している。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 平成17年度より児童教育学科と生活科学科で開講している「WE LOVE 鹿児島!」は、体験型授業をとおして地域との生きた絆を強める科目として位置付けられている。学科・専攻課程により授業内容、単位数、必修・選択等で同一ではないが、それぞれの学科の特性に合わせた授業内容を工夫している。

## 職業教育の取り組みについて

### 総評

当該短期大学では、各学科・専攻課程とも、免許・資格を取得し実践力を育成することを教育目標としており、教育課程における専門科目は職業教育に直結するものであるとしている。

一般教養科目として「インターンシップ」を全学科で開講しており、科目担当者、就職進路指導部会員、学生支援課が連携して実施に当たっている。さらに専門科目においては、児童教育学科と生活科学科では「キャリアガイダンス」を、教養学科では社会人基礎力養成を目的としたキャリア教育を実施しており、全体の調整は教務委員会の中のキャリアガイダンス小委員会が担当し、全学的な意識の共有を図っている。また、教員採用試験対策講座等の講座や進路適性検査、公務員模擬試験などが学生支援課により実施されている。

平成24年度後期からは、キャリア支援部門、実習支援部門、学生生活支援部門の3部門を統括する学生支援センターが組織された。

後期中等教育との円滑な接続のための取り組みとしては、合格者に対して、入学までの学習支援のための資料を送付するとともに、学科・専攻課程ごとに入学後必要となる基礎的な学習課題を課している。

リカレントの場としては、科目等履修生制度や公開講座、卒業生への図書館利用の便宜を図るといった取り組みがある。

教員は、免許・資格に関する研修やセミナーへの参加とその情報の教員間での共有に努め、資質の向上に努めている。

以上のような職業教育の効果は、児童教育学科及び生活科学科では学外実習の体験発表や提出物など、教養学科ではキャリア教育に関する授業の提出物やプレゼンテーション等をとおして、測定・評価を試みている。また、種々の資格試験の合格率や取得率も成果としてみなしている。

学生の在学中の学習活動状況や卒業時の免許・資格取得状況、就職率等に加え、就職先からの評価、実習訪問等での卒業生の評価の聞き取り調査の結果等を学内で共有し次年度の教育課程や教育内容、学習支援方法の改善に生かしている。

### 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 選択科目ではあるが、全学科・専攻課程で1年生前期（夏季休業中）に一般教養科目として「インターンシップ」を開講している。入学後の早い時期に、学生自身が将来目指す領域で実際に働くことをとおして、その仕事への適性等を見直す機会とし、また在学中に身に付けておくべき技術・知識を確認する機会として有意義な取り組みである。

## 地域貢献の取り組みについて

## 総評

地域社会に向けた公開講座は、平成 21～24 年度には、「くらしと文化講座」として、地元新聞社との共催で、各学科・専攻課程の特色を生かしたテーマで活発に実施されている。また、平成 25 年度からは、「かごしま県民大学中央センター」と連携して、「これからの子育て」、「くらしと文化講座」をもって「かごしま県民大学連携講座」に参加している。

生涯学習講座としては、介護福祉士国家試験受験希望者対象に対策講座として「介護技術講習会」、一般人を対象に「さわやか介護セミナー」を、また「管理栄養士国家試験受験対策講座」を卒業生対象に実施している。

正規授業は科目等履修制度により開放している。

平成 17 年度に現代 GP に採択された「WE LOVE 鹿児島! プロジェクト」を核とする「WE LOVE 鹿児島!」は地域密着型の当該短期大学の個性をアピールする科目である。鹿児島市立美術館等の文化施設、地元企業、鹿児島市危機管理課といった行政等との連携で実施されており、平成 26 年度からは全学必修化される予定である。

鹿児島県高等学校進路指導研究協議会との連携では、高校生の進路指導の意見交換の場を開催している。大学地域コンソーシアム鹿児島にも加盟し、活動している。また、鹿児島県内にとどまらず近隣の宮崎県・熊本県の一部の高等学校も対象とした「出前講義」を準備しており、要請に応じて各学科・専攻課程の特色を生かした授業の提供をしている。

以上の全学的な取り組みのほかに、各学科・専攻課程独自の活動も活発になされている。

ボランティア活動としては、学科・専攻課程による地域活動と学生による地域活動が行われており、例えば、県内の幼稚園・保育所・施設などから、夏祭り・運動会・秋祭り・クリスマス会などの季節の行事における依頼が多い。ボランティア活動については、学生支援課でその活動状況は把握されている。

## 当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 鹿児島市最大の市民の祭りである「おはら祭」の活性化のために公募されたヤング踊り連では、ヤング踊り連 Team 鹿女短として参加し、その中核となって活動している。その活動は地元鹿児島にとどまらず、県外・国外にわたり、地域貢献の一翼を担っている。